令和4年度 中土佐町総合教育会議 会議録

日 時 令和4年12月21日（水）午後3時00分～5時00分

場 所 中土佐町役場 1階 大会議室②

出席者 (町長部局) 町長 池田 洋光 総務課長 平田 政人 総務課 林 美月
(教育員会) 教育長 岡村 光幸 教育次長 多田 昭介
(教育委員) 中沢 建夫 濱田 貴代 下村 麻衣子 (欠席) 高橋 雅人
(司会) 総務課長

議 題 1. 上ノ加江保育所の休園について
2. その他

(池田町長 開会の挨拶)

(岡村教育長 開会の挨拶)

○平田総務課長 どうもありがとうございました。

子供が減っているという中でも明るい話題も2点ほど教育長のほうからもありました。本会議を通じて、また何かあれば町長部局としても対応はしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、議題のほうに入っていきたいと思えます。

議題の1として、上ノ加江保育所の休園についてということで、ちょっと事務局の教育委員会の方から資料の説明等をよろしく申し上げます。

○多田次長 よろしく申し上げます。

お手元のほうにお配りさせていただいております上ノ加江保育所統合に向けての話合いの経過、ワンペーパーになりますが、簡単に経過等につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、上のほうの2つの表の部分ですが、これは令和4年8月現在の上ノ加江地区の保小児童数ということで表を載せております。これが各年、5年、6年と推移しておりますが、それに合わせた形で今現在の数値をこちらのほうに入れさせていただいております。

簡単に令和4年度の今の部分を説明させていただきます。今、上ノ加江保育における人数といたしましては、3歳児が4名、5歳児が6名、計10名が今保育園のほうに通われておるところです。上小のお子さんの人数といたしましては、1年から6年生合わせまして23名で、保育・小学校合わせて今現在33名が通園それから学校のほうに通われておるといふことでございます。

次に、その下のほうの表でございますが、こちらのほうは、特に保育園のほう、実際今上ノ加江地区にお住まいといひましょうか、そういうお子さんの部分の方も入れました数字、保育園に通われておるといふわけではなく、既に上ノ加江地区で生活されておるお子さんの部分を載せさせていただきます。令和4年は合わせまして15名、それから小学校が同じく23名、保育と小学校合わせまして38名の方が上ノ加江地区の保育それから小学校の部分にいらっしゃると、申し訳ございません、保育じゃないです、子供さんとして。子供さんにつきましては、下にも書いておりますが、保育園は既に、久礼保育園のほうに通われていられる方がいらっしゃいますので、その分の数値がここの部分で10名から15名等々の部分でずれておるといふところでございます。

すみません、次にこの資料につきまして、これは上ノ加江保育所休園に当たり、6月から保護者の皆様方と話し合いをさせていただいたときの資料を基にしておりますので、その中に書いておりますが、今回の説明会の趣旨といふことの部分で文面を残させていただきます。これについては、保護者の皆さんが話し合う大前提といふことをお願いしているところなんです、上ノ加江地区の児童が今後少ない人数になるので、状況を知っておいていただきたいといふことで集まっていた。保育、小学校での児童数10名以下は、社会性の育成等教育上の効果が発揮されにくいと考えるので、今後の在り方について話し合いを行うと、こういう趣旨の下に保護者の皆様方に集まいただき、説明会を開いたところなんです。

時系列といひましょうか、経過でいきますと、6月22日に1回目、

これは3歳児の保護者との話し合いのみになりますが、状況説明と保護者の意見を聞いております。これはもう全ての関係者の4名、4家族の方に集まっていたいただき、ご説明をさせていただいたものであります。それを受けまして、内容等につきまして町長のほうに8月12日にご報告をさせていただいております。

それを受けまして、9月16日、これが2回目、これは3歳児、5歳児、今通われている方全ての保護者と話し合いを持ちました。これは後で教育長のほうからも説明があると思いますが、この人数が今後の小学校の部分にも影響してくるということでございましたので、関係保護者の方全員に集まっていたいただき、話し合いを持ったところで、これにつきましても全生徒の家族の方に集まっていたいただいております。

次に、9月29日ですが、上ノ加江保育所の職員と3歳児保育との話し合いを行っております。これは、1回目、2回目を受けて、なかなかみんなが集まると、集まる中に言えない部分があるので、個々に聞き取りをしてほしいということで、所長のほうにお頼みをして話を聞いてもらっております。その内容につきましては町長のほうに報告をさせていただき、11月4日、3回目の保護者との話し合い、休園に向けての具体的な承諾はいただいたと考えております。この詳細については、また教育長のほうからご説明いただけたらと思っておりますが、それを受けて、今現在事務的な部分でいきますと、今月末に保育所の休止届を県に提出を予定するということの事務的手続きを取っているところでございます。

なお、この部分につきましては、この間に、日にちは申し訳ありませんが、ちょっとここは書いていませんが、議会の全員協議会のほうでもこの休園に向けての取組といいたいまいしょうか、状況についてはご説明をさせていただいているところでございます。

経過は以上です。教育長、すみませんが、また補足等ございましたらお願いします。

○岡村教育長　　上の端の表は、これは保育所に通っている子供の今後の動きなんです。それで、休園となると当然保育所が、ここはゼロになっていきます。それ

から、下の表は中土佐町に住民票のある子供さんの数を入れた分ですので、実態として、例えば令和4年度のゼロ歳児、2歳児につきましては、通っているのが、もし通っているとしても久礼保のほうに通っているということになっているわけです。したがって、上保のほうの数字はゼロというふうになっている傾向ですので、ご理解いただきたいと思います。小学校のほうはまた後で、今後質問が出ましたらまたお答えいたしたいと思います。

それから、その表と説明会の趣旨の間にある1歳児、ゼロ歳児の3名については、予想と状況の説明をしているものですので、またご覧いただけたらというふうに思います。

以上です。

○平田総務課長 今、事務局のほうからちょっと説明がありましたが、感想でもご意見でも、何か委員さんのほうでありましたら。ないですか。状況はこういう状況というところにはなっているんですけども。

○濱田委員 大北保育園のときもすごくあそこは地域の保育所からできた保育所やったので、ただ、やっぱり10人以下になるという時点で、県のほうからも講師に来てもらって、10人以下ではちょっと集団としての子供の成長がやっぱり保障されないということで、大北保育所は休園で久礼保育所へ来たんですけれども、地域の方が物凄くやっぱり思い入れのある保育所でしたので、すごくこう、保護者はもちろんよかったという、大きい集団に入れてよかったという意見が主でした。双名のときも、保護者のほうはやっぱり統合してよかったという意見が多かったです。

ただ、やっぱりそこに住む地域のそれ以上の方、かつて子供を行かせた方、そういう方がすごくこう、もう残念や、寂しいみたいなことがすごく聞かれたので、本当にこの人数見たらもうしょうがないと思うがです。しょうがないと思いますけれども、何かそこに住む地域の方に対しての、説明とまではなかなか難しいでしょうけれども、何かそういうのは今後何かありますか。

○平田総務課長 教育長、その予定はありますか。

○岡村教育長 もうなかなか町民に対しての機会というのはないので、例えば行政懇談

会とか、そういった場面ではもちろん報告とかはしますけれども、この令和4年度の分はもうないんですね。もう年度の当初にやったので、そのときにこのことが分かっていたら、もちろん説明したんですけども、そのときにはそこまで行っていなかった。

それと、今回丁寧に6月からやってきたのは、まさにさっき濱田委員が言われたように、うちの子供は大人数のところで教育をしたいんだけど、地元の学校とかあるいは先輩に迷惑がかかるから、なかなかそれが言い出せないというやっぱり本音の部分があるんですね。そこで、それはちょっと大変やろうから、委員会が前面に出て話を聞いて、こっちサイドが悪者になることはよくあることなので、やっぱり保護者が本当に子供を通わせたいところに行かせてやりたいと思って、実は6月の話の中からそういった保護者の気持ちも察して、こういうことをしていますというのは実は話をしながら進めてきたというのもあります。

○濱田委員 上中がなくなった時点でもかなりの人が寂しゅうなった言うて、やっぱりいろんな学校に関わったボランティアさんとか、そういう方からもお話を聞きましたけれども、多分保育所が休園になったら小学校も、もう何年後には上小は久礼保育所へ通いゆう上ノ加江の子供が上小へ帰るということはなかなか希望としては少なくなって、いずれ上小も休校になるという可能性が高くなってくると思うので、何かその辺もやっぱり住民の人、休園式にいろんな、何人かに来てもらおうとか、何かそういう、何かの機会をやったほうがいいんじゃないかなとは思いますがけれどもね。

○多田次長 ちょっと構いませんか。

○平田総務課長 どうぞ。

○多田次長 この話を保護者の皆様がやっていく中で、やはり小さい地域ですので、この話を持っていった時点で、もう休園という話が地域ではかなりのうわさというか、いろんなお声が上がってきました。ただ、何回もやっていくうちに、やはり保護者の皆様方も納得、ある程度そういうふうな方針ということも、地域自体もご理解いただけてきたのかな。あまりそういうことを、この件に関して委員会のほうに何らかのご質問とかはなかなかない状

況だったと。

やはりこの前、先ほども言いましたが、全員協議会のほうでもご説明をさせていただいたときに、地域の議員の皆様方もこの状況であればやむなしというような部分で、保護者の方々に寄り添った形のような休園に向けての手续を取るようというご指示もいただいて、基本的にはやはりやむなしというご意見をいただいたような経過があります。

○池田町長

私のことですけれども、もともと大野見の南小学校の卒業生で、大野見村時代にあっても一番先に南小学校が休校になって廃校になりました。今は住宅になっていますけれども、その住宅になっている校舎が、私が小学校1年のときに新築になった校舎なんです。非常にその地域の皆さんの悲哀というか、これは自分の体験からも本当によく分かると思いますか。

この表をもう一回見ていただきたいんですが、上の表ですよ。現在、令和4年度において3歳児4人おりますよね。令和4年度に、上の表ですよ。左に令和4、5、6とありますけれども、令和4のところを見てください。そうすると、3歳児4人ですよ。この4という数字がずっとこれ、次の表へスライドしてきていますよね。現実問題、この4は全て来年の令和5年については、ここにいわゆる年中さんが4になるけれども、これは入りません。入らないんです。ということは、上小の次の右のスライドして見てもらったら、令和7年度に小1にこの4人が来ることになっていますが、多分、久礼保へ行ったら、友達もみんな久礼中、久礼小へ行くので、この4人は多分、多分ですけれども、上小へ来ないと思うんですね。

そうすると、この4という数字がずっと毎年度スライドして、下までありますが、これはもうないと認めなきゃなりません。そうすると、例えばR9、令和9年度を見てもらったら、トータルで15名になっていますよね、トータルで。小学計という欄です。15名やけど、実際は5年生と6年生、6と5しかおらずに、3年の4はないので、これは11になるがやですよ。6年生と5年生しかないなったら、ちょっと次の本当に上小まだやりますかという話になってこようと思うので、濱田委員が最初に言われたように、もう上保を休園という事態において、もう自然と上小も休校に

なります。

○濱田委員 本本当にそうですね。

○池田町長 なります、まず。それはいつかという、私は多分令和9年度、5年生が6人、6年生が5人となって11人ですが、これが最大というか、最長ここまでで終わると思います。この5年生の6人が今度6年の6人に行ったときに、下級生がゼロですよ。そんな学年はないので、運動会もできんし、まして中学もないわけですよ。保育もないわけですよ。ほな、6年生の6人だけで運動会も、あるいは学校行事やりますかいうたら、それは現実的に無理やと思うので、上小についてもちょっとそういう状況が起きると。

地域の皆さんにとったら、ただでさえ人口も減っているのに、その中でもう菱高精機が大野見へ来年は移ることが決定していますので、菱高精機がなくなる。上ノ加江の住民の皆さんのお気持ちを考えるときに、私もう本当に何とかならんのかなというのがすごい強いんですが、今のままではこの状況が続きますので、何とかもうちょっと小学校は長続きしてほしいなという気持ちはありますけれども、そのためには、やはり一旦は久礼保へ来ても、上保へ入るといような、そういう子供さんをつくっていくしかないですよ。

本当に難しい問題ではありますけれども、地域の住民の皆さんもある程度分かっておられるわけで、年度当初に地区長会というのもまず4月にやりますけれども、地区長会においては、当然この話もしますし、もう既に地域の方の大多数がこの問題についてはある程度織り込み済みと。

その一方で、上ノ加江はご案内のとおり中学校の跡へIT関係の企業のリングローというのが来ますので、また別のにぎわいというか、これはまだ始まっていないのであれですけども、集まる学校と書いて集学校というプロジェクト、集学校プロジェクトというのをリングローさんが全国に展開しておりまして、高知県ではもちろんうちが初めてであります、他の3県はないので、四国で初めての集学校になると思います。追って増えてくれると思いますけれども。かつては子供たちの声がこだました学校に

において、地域の人が集って、ITという話ではありますけれども、またいろんな活動をしていくというのが集学校の輪郭でありますので、そういったところを行政としてもしっかりとサポートさせていただいて、上ノ加江が寂れるということを少しでも軽減をできたらというふうにも思っております。

子供の教育というのは、本当に大事な話でありますので、久礼中、そして大野見についても、最終的にはもう学園方式を取らざるを得んのかなと。今あるところでいうと、梶原町ですけれども、どうしても子供の減少は避けて通れんので、大野見保育所も24人おったのが15名になりまして、今年度大規模改修で新築そっくりさんになりましたけれども、なった途端に減ったということで、うちも大変ショックを受けたわけではありますが、大野見は何とか、今日は高橋委員が欠席でありますけれども、当面、小中一貫校とか、もっと言うと保小中一貫校とかいうことも考えなきゃならんのかなと。

その理由については、大野見地区はもともと、先ほども言いましたけれども、中央、いわゆる吉野地区ですね、吉野地区に対して北地区、南地区とあって、もともとは中学校2つ、小学校も3つあったわけです。それが今、もう1中、1小しかないのです、保育も1園しかないわけです。だから、そういうことではありますけれども、四万十川の本流に沿ってずっと集落が展開してしまっていて、その中でも枝に分かれておるわけです。例えば北へ行くと、本線のあるいわゆる大股というところ、それが過ぎたら桑ケ市、東の桑ケ市へいきます、船戸へいきます。その筋と、今度いわゆる右手のほうにある、いわゆる東方面になるんですが、これは下ル川という川になります。それから、ずっとして、奈路から行ったところが跡川地区というのがあって、それから南に行きますので、それぞれの集落、地区から児童生徒がおった場合に、これを全部久礼へ運ぶというのは無理なんです。

スクールバスをどこか1か所に集めて乗せてくるというのが、今言うた沿川がずっとそのように散らばっているのです、なかなか難しい。そして中学になると部活の問題もあるので、なかなか久礼に上ノ加江が統合してき

たみたいなのは、大野見の皆さんはしづらいので、大野見はそういったいわゆる統合した教育をやっていかないと、それ以外の手はもう全部寮で、寄宿舎に住んでもらうしかないということになりますので、それはあまり現実的ではないので、何とかそういうふうに、しばらくは大野見はなくすことなくいききたいなという考え方があります。

さっき言った菱高精機が大野見のミットヨ跡へ行くという話でありますけれども、ミットヨの勤務者、社員さんが結構もうリタイアされた方もおるし、今、香南市のほうへ新しい社屋ができていますので、そっちへ移住したと思うんですよ。そのことによって、ミットヨ関係者のお子さんが大野見にいなくなるというような現象も起きておりますので、大野見地区においても早晩この保・小・中の問題を検討しなきゃならんのかなというふうに思います。

それで、冒頭のご挨拶をしたとおりで、何とかうちへ移住してくれる、子育て世代の移住、そのインセンティブをしっかりと構築をして、教育環境が充実をしておるし、そういった支援策もあるし、何といても学力が担保されるというか、この中土佐町の教育を受けたら普通に中学校を出ても志望の高校に入れると、こういう環境をまず整えておかなきゃならないし、あと、一番保護者にとっても問題なのは職業の問題ですよ。なかなかうちに就労の場がないというのがありますが、高速道路を使えば結構なところで勤務もできます。うちの職員の中には1人、女子職員であります、毎日宿毛から通勤をしておる職員もおります。これも、高速が延伸をしたので、片坂はバイパスができましたし、それから中村宿毛道路、これもできてきたので、従前やったらとてもじゃないが無理ですが、そういう長距離の通勤にはなりますけれども、それができる状況も生まれました。

したがって、高知市周辺の勤務先であれば、大体高速を片道でも利用したら、全然そんなにしんどい、しんどいことはしんどいけれども、不可能なことはないので、まずは教育環境をしっかりと整えて移住をしてもらえるような、そういうことを新年度から強力に推進をしたいと考えております。

あと、移住促進でいうと、地域おこし協力隊なんかの事例もありますけ

れども、さっき行ってきよった松下昇平君なんか、協力隊員を経て今は松下商店の商店主、あるいはまた大野見七面鳥生産組合の組合長ということで活躍もされておりますし、そうやって協力隊を経て起業する、そういう人を、また、そこでまた所帯を持ってもらうとか、いろいろあろうかと思えますし、大野見の北地区で今協力隊員を置いている鈴木弥也子さんという方も、非常に若くて世界を飛び歩いた人なんですが、地域に入ってしっかり頑張ってもらっています。

それから、先日、これは協力隊とは関係ないんですが、女性の方で独身の方なんですけれども、本町に先週、10日ぐらい前に移住されて、元のお仕事は何ですかと聞いたら、プロトラックのドライバーで、コンテナ船のコンテナの積込みをやるトレーラーを運転する、30年やったというたくましい女性が引っ越してこられました。カツオがとにかく大好きで、カツオを食べられるところと、あとちょっと飲み物やって暮らしたいなという、そういった方もおります。

それと、あと農業で生計を立てておられる方もぼつぼつおいでますので、何かこう、私がひいき目かもしれませんが、移住された方が結構、その方のキャリアが非常に豊で幅広で、魅力的な方が結構多いんですね。そういった方がSNS等で発信力もすごくありますし、何かこう、町をもっと精力的に売り出していかなきゃならんのかなと思っておるところです。

また、ちょっと余談になりますけれども、先ほど私、高知信用金庫の本部で、地域みらい財団という、その会議があって行って来たんですけれども、県の理事の中には、県の産業振興部長、沖本部長も理事に入っていて、須崎市長、その中で、高知県の豊かな食文化、これを発信しようじゃないかということで、食プロというのをやるということが今日確認をされたわけなんですけれども、アドバイザー的にはHさんというテレビでおなじみの先生、彼がアドバイザーというか、講師についてやってくださるということでもありますけれども、いろんな豊かなこの中土佐町の食文化にしても、人の関係にしても、あるいは自然の日本の原風景とも言えるような山、川、海ある、そういう人々の暮らしぶりとか、そういうこともうまくアピ

ールしながら、子育て世代の方に移住していただいて、楽しく心豊かに過ごせる、そういうまちづくりをしていきたいというふうに考えております。また、委員の皆様方に、ぜひともいろんなご提言をいただきたいなと思っております。

以上です。

○平田総務課長 中沢さん、何か感想でも、ないですか。

○中沢委員 何か、矢井賀地区におりますと、そういうふうな希望的なものがないんですけれども、ただ、町のほうから地域協力隊ですか、派遣してくださっている方々、本当に、今は水田君かな、その前は愛ちゃんだった。

(「そうです」の声あり)

○中沢委員 というふうに、とても村に協力してくれて、村人はもう年寄り村ですからね、あまり機械的なことは分からなくても、彼らに相談すれば本当に一生懸命教えてくれるんですよ。またほかのことでも手伝いしてくださって、大変ありがたいですね。

それから、協力隊を3年ですかね、卒業して、愛ちゃんは恐らく軌道に乗っていると思うんですけれども、猫の餌をちゃんとつくって、地元の婦人たちを餌づくりのときは雇って、婦人たちのお小遣い稼いだりして、結構楽しそうにやっておりますね。協力隊をというのは大変ありがたいと思っております。

○平田総務課長 何とか定住はしてもらっているとは思っていますので。

○中沢委員 水田君自身ももうすぐ契約が切れるんだと思うんですが、何すると聞いたら、なるかならんかは分かりませんが、海の観光、何ていうんだっけ、ドライブ。

(「スカイダイビング」の声あり)

○中沢委員 ダイビング。スカイダイビングですか。

(「スキューバ」の声あり)

○中沢委員 スキューバダイビングをしたいなというふうに言っております、そういうふうに、海の自然でしたらば十分あるわけですから、やり方によっては本当にいけるかなと思っております。ただ、コロナの関係で人間の移動

が一番少ない状態ですからね、今。ちょうどタイミングは悪いですよ。どうぞ水田さんたちを手助けしてやってくださいませ。お願い申します。

○池田町長 その話が出たので申し上げますが、ご案内のとおり、矢井賀のほうの高齢者コミュニティセンター、これを改修を始めました。今、昨日も実は設計士と一緒にっておりますけれども、しょっちゅう行っているいろんなことを、現場の施工業者が西部鉄建さんなんですけれども、いつも話をしています。割と、えっ、こんなになったのというような感じにあそこはリニューアルされますので、まず1つは、段差をなくしてもうバリアフリーにしていきますし、それから右の門になっているところは、まさにこのタイルカーペットを全部敷いて、結構居心地のいい空間にもなりますし、入って左手もちょっと一段高くなったり、天井がちょっといろいろぶら下がったり、天井つり下げ型のエアコンがあったりとか、うっとうしい感じがあったんですけれども、あれものけると、左に和室があります。あれも全部バリアフリーになりまして、結構収納庫も設けながら、皆さんがもう本当にリラックスできる、会話ができる環境にしております。

それから、一番変わるのは台所、厨房なんですけれども、厨房を全部変えますので、多分新しく見たら、ええ、こんなになったのという感じになると思います。玄関入ってすぐのところカウンターになって、今まで壁ですが、それがカウンターになって、すぐにこう、料理の出し入れができると。それをすぐに運ぶという格好にもなりますし、それから、全面的にいろんなところを改装していきます。商店がないので、大野見の私の先輩なんですけど、竹原から来るTさんという方、これが移動販売車で来ますけれども、その販売車を入れる屋根付きのカーポートみたいなものを造りますので、雨天にやってもこの両サイドを開けて買い回りをするとき濡れずに、屋根の中に入って販売ができる。そんなちゃんと仕組みもつくっております。

○中沢委員 そうですか。

○池田町長 ですから、随分便利になると。

○中沢委員 ありがたいですな、それは。年寄りには喜ぶますわ。

○池田町長 ええ。まずはバリアフリーということ。あと、現在、使用のできなくなっているトイレ等も全部配管も見直して、あれ全部改修に入っていますから、全然変わってくると思います。

○中沢委員 いやね、そういうふうにとてもすてきな家にしてくださるというのは、ありがたいですよ。本当に楽しみにしているんですけども、私個人的には、それ以前に、矢井賀のあの地区にああいうふうな、どんなグループでもきちんと手続をすれば入って利用できるというシステム。あれは本当にすばらしいと思います。ありがたいです。それを今またリニューアルというんですか、本当にありがたいことだと思っています。

○池田町長 それで、奥の小学校跡も、やっぱりあそこはもうヘリポートになりますし、皆さんのちょっと安心感も増すのではないかなと。運動場の真ん中、舗装しますので、ヘリが離着陸できるというふうにはなります。ですから、移住者の方も含めて、皆さんでいろんな話合いをしながら、地域のことをまずは地域で守っていく。そこに行政が手をちょっとつけさせていただくみたいな格好でいきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

○中沢委員 お願いします。また、旧の矢井賀小学校も、本当に村人が使いたかったら簡単に使わせていただけるし、運動会なんかあの体育館なんかでできるし、本当にありがたいですよ。

○池田町長 それは、今後とも全部、今より悪くなることはないと思うんです。

○中沢委員 ええ。トイレもきちんと改修してくださって。本当ありがたいことです。

○平田総務課長 ありがとうございます。

下村さん、何か感想でも。

○下村委員 移住・移転を、言えば主眼に置いて、これから先そういった人を増やしていくことを考えるというお話伺ったんですかね。やっぱり衣食住プラス教育と医療と金融がないと、その地域って活性化はないと思うんです。一回閉園、閉校したら、まず教育施設がなくなるという状態で、そこに入ってきた人たちに対して今後、じゃこの地域がもっと活性化したらここに学校ができますとか、保育園ができますという再開できる可能性というのは、示していくんですか。例えば矢井賀に子供たちを連れて誰かが移転してき

たときに、上ノ加江にもないです、矢井賀にもないです、じゃ久礼まで通うことを行政としては提案するのか。それとも、その地区での再開を、こういうハードルがあるけれどもクリアしたらできるというふうに示していくのでしょうか。

○池田町長 それは、どれぐらいの人が来るかだけでも、今、上ノ加江も休園なわけよ。廃止にしていけないので、廃止にすると廃校とか廃園とか、廃所というか、これだったら再開ができなくなる。けれども、休んでいる限りは、またそういう条件を整えばですが、これは教育長のほうからちょっとお答えさせてもらいますけれども、学校に先生を置く基準というのがあって、最近、昔やったらほとんどなかったんやけれども、やっぱり特別支援の必要な子供さん、これはやらなきゃいかんわけで、それに手を取られるとか、昔はちょっと、濱田委員なんかとてもそんな好き嫌い言いよったら飢えるというような時代の人と。

○濱田委員 失礼な、そんな時代やないですよ。

○池田町長 もう今は、ほら、まずアレルギーのお子さんの除去食とか、もうそれからいろんなあと障害をはじめ、いろんな障害をお持ちの方、全部サポートせないかんので、なかなかその四、五人増えたぐらいで学校再開というのはまず無理だと思います。ただ、休園・休校しゆうところは、可能性はあります。ですから、矢井賀へつくるというのはまず具体、ちょっと現実的ではないけれども、例えば上小、さっき言ったこのままでは減っていくんだけど、増えてきたら、上小がまた、今休校ではないので、やっているんでこの数字が変わってきたらまたそういうこともできるだろうし、上ノ加江保育所にしても、休園なので、それはまた再開というのは状況が全然変わればできる話です。

大野見はどこも休んでいないので、やっぱり久礼保なんかもそうですねけれども、一応通園のためのバスは確保はしておるけれども、ほぼほぼ保護者が送迎しているので、ほぼほぼ。だから、上ノ加江あるいは矢井賀の方が、矢井賀から上ノ加江へ来たりとか、上ノ加江の人が久礼へ来たりとかいうことについては、今の車社会の中で、保護者がわりかたそういう通

学・通園の手段は担ってもらえるんじゃないかなというのがあります。これは専門的な話になるので、教育長のほうからちょっと補足をお願いします。

○岡村教育長　　今、教員職員の定数というのが一定決められているんですけども、小学校は特に1学級について1人の先生というのが大原則。さっき言ったように、本当に特別な支援が必要な子供さんというのが非常に増えてきて、その場合も、認められた学級に入級すれば、そこに1人つきます。それは1人でも2人でも、その代わり8人までは1人しかつかないです。9人になると2学級になって2人先生がつきますけれども。

　　具体で言うと、今、来年度久礼中は1つの自閉症・情緒学級というのがあるんですけども、その学級の子供が7人なんです。7人もそういう子供さんが来るんだけれども、先生は1人しかつかないという。ここがちょっと厳しいんです。あと2人増えれば2学級になって2人先生がつくんですけども、そういったことになります。中学校はもう学級数で3学級やったら9人。3、4、5が9人ということで、例えば久礼中は今9人来ているんですけども、そこに1学級、2学級増えても定数は変わりません。先生の持ち時間が増えるというちょっと苦しい状況にはなりますけれども、そんなところが定数の部分です。

　　基本、中土佐町、どこへ子供さんの家庭が転入してきても、今の数字は保育所、学校の数は変えられないと思うんです。例えば矢井賀に来たら、上小に行ってもらおう。笹場に来たら選択ができる、久礼と上ノ加江。大野見はどの地区に来ても、もう大小と大中しかありませんので、ただ、大野見は北の場合は通学バス出します。あそこはさっき町長が説明したように、北へ奥へ行くと、大股があり、萩中があり、下ル川がありで、今年そうですけども、下ル川の奥にも1人小学生がいて、萩中にもいて、大股は割と近めなんですけれども、1か月ごとにバスのルート変えているんです。1か月、下ル川に先に行って、帰ってきて、萩中へ行って、帰ってきて、学校へ戻る。そうすると、最初に下ル川のところはずっと乗っちゃかなといかん。1か月したら萩中へ先行って、今度は下ル川行って、小学校へ抜

ける。できるだけ、平等と言うと変ですけれども、そんな形にしています。

南は南でバス通ができるようにしています。跡川のトンネルから降りたところの子供さんいますけれども、そこも普通の、何バスというんですかね……

(「コミュニティバス」の声あり)

○岡村教育長 コミュニティバスとか乗合バスですね、一般の人が使う。それも……

(「路線バス」の声あり)

○岡村教育長 路線バスも使えるように。だから、そんな感じで町内どこに来て、大野見だったらもう大野見、それから旧の中土佐、矢井賀から久礼も笹場も上ノ加江か久礼という。なお、今後、先、子供さんの数が減って子育て支援等を充実しようというところで、ひょっとすると例えばもう上ノ加江からは通学バス出すというような形になるかもしれない。それは、例えば上小も統合しますよとなった場合ですけれども、今、上中の場合はバスを出しています。そんなこともあるので、そのときに例えば矢井賀に1人はちょっと厳しいかもしれんですけれども、何人かおるという場合には、当然1人のときも上ノ加江までバス出していましたので、バスというか車出していましたので、そういった形での通学の支援はできるかなと。

○平田総務課長 あと、大野見の小中校の生徒数のことで、先生の定数、それもちょっと。

○岡村教育長 小中一貫校という形で校長を兼務しています。校長を兼務することによって、兼務校に1名の教諭の加配があります。今は、中学校長、中学校籍にしている、小学校を兼務している。加配教員を小学校にもらっています。これは、加配教員は小でも中でも選択してもらえますが、今回、小学校は変わらないんですけれども、中学校が2学年で3名減、新学年が4で実質2名減ですけれども、中学校につけるか小学校につけるかはこれから教員の配置によって考えていく必要があるということです。

もうそれ以上は、なかなか今の状態でできないので、本来、保小中の学園構想の予定をやるとするとすれば、本来というか、もともと小中学校の敷地内に保育園があれば、もっと簡単だったんですけれども、なかなかもうリニューアルしてきれいになったばかりなので、それは厳しいかもしれ

ませんけれども、形上はつくることは可能だと言ってあるし、距離的にもちょっと谷を挟んで移動はせんといかんですけれども、可能かと。今でも職員と運動による体づくりの表彰の話しましたけれども、今でも階段を上がって、それから中学校のグラウンドでたこ上げやったり、いろんなことをやって、散歩して帰ってくる。それは今でもやっているのです、そういった形の保小中連携。

だから、ちょっと説明が不足したんですけれども、知・徳・体の部分は保育園からやっているんです。いろんな必要なものがあれば、例えばバランスボールとか一輪車とか、あと昔は缶詰の缶でポコポコいうてやっていましたけれども、ああいうのもあったりして、運動もすごくやってくれています。これは久礼保も一緒なんです。保育所の保育士は、具体的にやることを指示すると本当に一生懸命やってくれます。今、その運動もすごくやってくれている。久礼保も本当にやってくれて、自分らが庁舎から時々ガソリンスタンドの前を歩きゆうのを見て、私はうれしいんやけれども、どきどきしながら、交通事故もよくあるじゃないですか。何とかの列に突っ込んだとか。もう国道の横やからどきどきしながら見ているんですけれども、やっぱりすごく熱心に取り組んでくれている。

ちょっとリスクはあるけれども、やっぱり体づくりというのはすごい大事なので、頑張っって本当にやってくれていると思います。そういう子供らが保育園から小学校、小学校から中学校へ上がるという。お勉強だけじゃなくて、体もしっかりつくって、さっき町長が言ったように、希望する高校に進学できるという。行ける学校に行くんじゃないで、行きたい学校に行けるやっぱり子供をつくっていかないといけない。

教員数とか保育士の数の話とか、難しい問題いっぱいあるんですけれども、上保に今勤務している正職、要するに町職の方は、あと、もし久礼保に通うとなつて休園となると、久礼か大野見に配置できるという、そういうちょっと余裕はできるかもしれない。でも、会計年度とか、昔でいうと臨時さんですよ、がないとやっぱり運営はできない状況にはある。人の確保、数は絶対大事ですけれども、質の確保というのも大きいと思う。

○下村委員 高校生以上の通学についてですけれども、今その例えば小中まではそういった学校からの、行政からの補助、バスなり何なりあると思うんですけれども、高校生に関しては、JRとの接続とかバスの運行とかは十分確保されているんですか。

例えば今通学で絶対JR使わないと行けないじゃないですか。久礼という町内からどこかへ通わなきゃ高校って行けない施設ですけれども、それに対して例えば大野見の子たちは、保護者が迎えに来れなくても帰れるようなバスの運行があるのか。

○岡村教育長 バスの運行。

○多田次長 時間帯が合わないときがあるというのはちょっと聞いたことがある。

○岡村教育長 出ていないです。

○下村委員 今、須崎でさえ厳しいですよ。

○多田次長 ちょっとずれると乗れないというのはお聞きしている。

○岡村教育長 ただ、大野見の人は工夫しているんですよ、親同士で。

○濱田委員 積んで来ゆうもんね。

○下村委員 保護者の努力でどうにかなるところと、やっぱり移住・移転してきた人たちが単体世帯で誰かの力を借りるって結構難しいじゃないですか。そこでママ友がいるわけではなく、親戚がいるわけではない人たちが来たときに、じゃその人たちが通いたいなと思っても、そこで既にハードルがあるという。大野見にはじゃ住めません、上ノ加江には住めませんとなってきますよね。今、久礼町内でもうちも結構遠いので、親が送っていかないと学校には通えませんか、なかなか子供を通わすのに難しい環境ができつつあるというのがあって、せめてJRとの接続を考えたこのバスの運行を要望してもらうとかできないでしょうか。須崎からの運行をするとか。

○岡村教育長 何年か前に、ちょっと忘れたけれども、そんなことが要望であって、町を通さずに直接連絡したときには、要は子供が乗る、子供というか乗客が少ないので、なかなかお応えできませんみたいな、そんな返事を何年か前にいただいたことがあって、確かにそれは営利目的でやっている会社なのだから、それは文句言えないという。

- 濱田委員 うちらが減るもんやない。
- 下村委員 そうなんです。だから、結局須崎で止まってる本数が多くなって、そこまで迎えに行かなきゃいけないとか、なかなか行きたい学校に行くというても、そこでハードルが既にできるというのはあるんじゃないですかね。
- 濱田委員 あります、それは。
- 下村委員 コミュニティバスとその普通の運行バスが同じ路線を使えないという話がこの間あったと思うんですけども、そこがコミュニティバス走らせることができないのであれば、何らかバス会社に対しては。
- 岡村教育長 結局、バスの時刻表というのは毎日とか、土日とか分けるときあるんですけども、ずっと確保しちよかんといかんですよ。今日は子供がおらんき休みますとかと、それができないので、そこがやっぱりちょっとネックですね。
- 平田総務課長 ある程度人数が必ず確保できるとかいうことやったら、そのスクールバスのことで考えられんことはないですけども、それこそ自分も子供2人、高校へ行かせましたけれども、ほとんどバスに乗ってくれんがですよ。ほかの保護者の。6時40分やったかな、ぐらいにちょうど汽車、JRが着いたときに上ノ加江へ行くバスがあったんですけども、もうあれで帰れやと自分の子供らが言ったがやけど、ほとんどの親が迎えに来て、そのバスへは、有料は有料やのなんで、あれなんですけれども、ほとんどが目の前止まっちゅうのに乗る子供さんほとんどいなかったですね。
- 下村委員 それこそお金がかかるからじゃないですかね。
- 平田総務課長 そうです。やっぱりそこもあるので、それに対して何かの補助みたいなところもあって、今のいわゆる通学助成ですよ。通学助成は、仮にその分も入れて助成ができますので。
- 下村委員 JRプラスバスの連携ということ。
- 濱田委員 これの拡大はすごい今回、子育てで給食費とか保育料とか通学の拡大とか、すごい子育て世代はありがたいと思う。これが少子化にあれしていつてくれたらすごくうれしいとは思いますがですけども、それと1つ、久礼小の大規模改修ですよ。今、読み語りや朝ボランティアできるけれども、

もう本当に、いや、5年生どこやったかね、6年生どっち行ったらいいかねというのが本当に……

(「迷路みたいになる」の声あり)

- 濱田委員 迷路。もうきっちり行っても、歳がたって迷うがです。なるだけ整理をされた設計をぜひ。
- 多田次長 形自体は変えれんですがです。
- 濱田委員 形は変えない、もちろん。
- 多田次長 言われるように、サインとかいろんな部分の中で、分かりやすい誘導とか、そういうことは可能だと思いますので、設計のほうへ、言われるように僕らも現場行ったときに久々に行ったら、ここどこへ上がるがや思って、すごく迷うときがあるので、そちらのほうは設計のほうにもお願いして、やっぱり本体自体を変えることは、ただ難しいですけども。
- 濱田委員 結局ほら、2棟あるやんか、言うたら。2棟あるき、もう3クラス、4クラスあるときのままだやんか。そやけ、もうなるだけ子供はこっちの棟へまとめるとか、多分もう1クラスで行くんじゃないかと思うがですよ。
- 多田次長 僕が言っていていいか分かりませんが、なると思います。
- 濱田委員 なると思います。今、20人足らずしかおらんき、それであのときはまとめて、迷わんような格好に。
- 岡村教育長 今は、その今の時代の流れで、コロナの関係もあって、とにかくばらばらなんです。それは意図的に話し中というものもあるんですけども、将来的には今後の最終決定はまた町のほうで決めるかと思っておりますけれども、どっちかにまとめて職員室と通常の学級で、ただ特別室とか、さっき町長が言われたように、学童とか、一般の人、町民も含めた利用できる、あるいは避難所施設としても利用できるというところは、すみ分けはしながら設計に入るというふうに思っております。
- 濱田委員 ぜひお願いします。
- 池田町長 ただ、もともと地盤が違う理由。二つ同じ地面に立っちゅうがやないわけ。はすかいなっちゅうだけでなく、学問坂から上がってきたところが一番低いがですよ。ほんで、こっちの自動車坂から来たところが一番高い。

だから、その差があの階段になっちゃう。これはもう構造上変えようがないので、もっと今言われたように渡りやすくはします。しますけれども、あと元の給食調理室よね。あれも地下みたいになっているがね。半地下みたく。あれは結局、やっぱりもともと地盤が違うから、あんな格好なっちゃうので、そこは、もう実は災害時のために調理道具は置いて有事の際に使うということでやってきたけれども、ちょっと今の基本設計しゅう中で、あれは別にするがよというような話もしとるんです。

だから、分かりやすい、使いやすい教室に変えよう。今6年生の子供が35名おるがですよ。あと1人おったら2クラスやのにとというような、もともと2クラスで来て、1年、2年と。3年と転校生があったりして1クラスになっている。それだけ多いので、昔の視聴覚室でその今の6年生、あの子らが4年のときから上へ、そこからもう部屋変わらずずっと、あの学年だけおるがですよ。でも、それはそういった事情があってやっているもので、これから本当に各学年1クラスになるんだらうから、しっかりと木質化をしながら、梅雨どき、いつもべたべた、下がつるつる滑る、あれを解消したいので、結露でほら、全部つるつるになって床が滑る。それを変えろということです。

これはもちろん林なんか頷きゆうけれども。まだ卒業したてやきほら。一番若い。忘れたやろ。中学から私立行っちゃったからね。小学校やったら知っちゃうはず。覚えていないですか、若いとき。

○濱田委員 学校の運営なんですけど。

○岡村教育長 どこ。

○濱田委員 図書室。

○濱田委員 離れちゅうのよ、教室から。

○岡村教育長 そういったことは総合的に考えます。

○多田次長 明日も業者来て、学校と打合せになっていますので、そういうところも意見がなかなか、最終的には町長のほうにも上げさせていただいて、学校との協議の結果、また保護者の方々にも示される図面つくってからやろうかと思うんですけれども。

○下村委員 工事中など音は大丈夫なんですか。今、交流会館とかすごい音なんですよ、一日中。何か交流会館の今リニューアルしていて。

○多田次長 工事しゅう。

○平田総務課長 屋根の。

○下村委員 屋根の工事するのとか、結構すごいんですね。そうしたら、学校なので授業中に音がすごいしたらやっぱり妨げになるので、そういうのはちょっと配慮いただきいたいなというのと、あと保育園も、台風のとときとか大雨のととき、全部廊下に雨が吹き込んでくる。木質化もすごい大事だと思うんですけども、やっぱりこれ木を前面に押し出すがためにちょっと不具合が、何か保護者的にも先生的にもここはつらいなとおっしゃっているようなところがあるから、いろいろ先生とか保護者の人にご意見聞いていただいたらと思います。

○濱田委員 砂ぼこりがすごい。

○下村委員 すごい、砂ぼこりがすごい。

○多田次長 真砂土でしょうね。グラウンドね。

○濱田委員 上にあるきよね。風がやっぱりこう、すごいがやろうね。

○下村委員 雨も半分も吹き込んでくるけれども、廊下も半分使えない、雨の日はこの感じですよ。

○多田次長 お迎えに行きいうき分かる。

○下村委員 分かる。

○平田総務課長 またそのあたりは委員会のほうが。

○池田町長 そうです、騒音、何であんな通路があいちゅうかいうたら、4つの棟に分けてるんで、ホールがあってそれからほら、順番にこう、上の学年から次に、全部で4つに建物が分かれちゃう。その建物と建物の間に北風が吹き込んでくる。それと、やっぱり軒はかなり立ってるけれども、やっぱりどうしても斜めに組んでくるのは、南面からも来るわけよね。けれども、あの高台になってるので、鉄筋コンクリートであっても同じことなのよね。

対策はいろいろ考えてはおりますけれども、年がら年中それでもないの、こんなこともあったわねみたいな。

○平田総務課長 1つの議題でかなり時間取りまして、行政側としても子育て支援策で何とか子供を増やしていきたいというのを来年度はちょっと力を入れて、やるつもりをしています。当然、上ノ加江も子供が増えて再開できる状況がもしあればいいとは思いますが、自分上ノ加江におりますけれども、比較的もう生活圏がほとんど久礼で、あまり思い出があるとかそういうことに対しては、寂しい思いはあるとは思いますが、生活していく上ではそんなに不便はないのかなというふうにも感じております。今後またそういったことを含めて教育委員会のほうも調整をしていただければと思いますので、1番目の議題についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○平田総務課長 そういうことで。

次、2つ目もその他になっていきますけれども、特に事務局のほうで考えていることはないですが、先ほどの久礼小の改修事業とかみたいなこと、また何かご意見があったら、委員会のほうへ伝えていただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひします。

何か委員さんのほうでちょっと聞いておきたいこととかあれば。特にございませんか。

○濱田委員 さっき、町長さんがこどもセンターに問題点があるみたいに言うたけれども、何かあるがでしょうか。

○池田町長 いや、やっぱり問題はあります、いろいろと。それはどこの組織もあるので。やっぱりちょっと増員します。それと、事務室をもう一つ追加して2つにします。やっぱりそれぞれの機能があるので、4つの機能でやっていくというけれども、ちょっといろいろありますから、スタッフもちょっと入れ替わりもありますし、どっちにしても、いわゆる悪くなる話じゃなくて、よくなるということでやっていきます。またよろしくお願ひします。

○濱田委員 こどもセンターでやっぱりそこら辺がすごく動いて、言うたら施策、子供にとっての無料化とか、その施策と一緒に、子供を育てる中身とか精神面で一緒になったら、やっぱり少子化もちょっとは改善されるんじゃないかと思って、すごくこどもセンターというのも大事と思うがです。

○池田町長 障害の方は別として、いわゆる子育て支援センター、これはやっぱり今移住者の話出ましたけれども、ここの地下の人間ならいろいろ頼れるところがありますよね。なかなかないので、やっぱり勢いこのこどもセンターがしっかり働かなきゃならんというのはありますから、そこも充実させていくということで、やっていきたいと思っています。

○濱田委員 ぜひお願いします。

○平田総務課長 何とか一定、箱じゃないので、中身なので、そこは今度やっていきたいというふうに考えておるようです。

ほかに特にございませんか。

なければ、町長、閉会の挨拶をお願いします。

(池田町長 閉会の挨拶)

○平田総務課長 本会議は、特に何かあれば臨時的に開催することができますので、また教育委員会等を通じて言っていただけたら開催することはできますので、よろしくをお願いします。

本日はどうもありがとうございました。